

目的 最近、若い女性の晩婚化には、男女の偏在、価値観、結婚観の多様化による意識のずれなどが云われるいるが、40歳代から50歳代の母親世代の既婚の女性の結婚観や若い時代の結婚様式はどうか結婚の実態を探り、結婚の意識や衣生活の意識・態度と個人特性との関連について考察するとともに、現代の結婚観との共通点や相違を明らかにするための前段階としたい。

方法 調査対象は近畿一円を中心とした40歳～50歳代の既婚女性 324名である。調査時期は1992年8～10月に質問紙留置法により行った。調査内容は、個人特性、結婚の意識と態度、結婚の実態、披露宴衣装のイメージ、ファッション意識・態度である。分析は、単純集計、クロス集計因子分析、クラスター分析を行い、結婚に対する意識とファッション意識との関連を検討した。なお、立場別（専業主婦、パート主婦、職業主婦）についても別に比較を行った。

結果 最終学歴は高校卒業が過半数である。核家族が73.8%で、結婚生活の理想像は「相談協力型」であるが実際は「内外分担型」である。結婚の平均年齢は24.5歳で、見合いが38.0%であった。「服装は地位や職業を表現する」と考えているが対人意識では服装を気にする人はいないと着装意識は低い。対人意識と1ヶ月の衣料費の項目間にカイ二乗検定で有意がみとめられた。服装の傾向はカジュアルに着こなし「人と変わったものは持たない」堅実な家庭中心の生活が伺われる。類別化の結果、個人特性や生活状況によって衣生活の意識・態度に差異がみられた。